

右漢文書事堂ノ結果ノ報告也

昭和十二年七月三日

漢文書事堂

書記官長

桐山 密 院

秘

昭和十二年七月十日

委員長河合顧問官也

委員石井顧問官也

有馬顧問官也

原 顧問官也

清水顧問官也

田中顧問官也

荒木顧問官也

文部省官制中改正ノ件外二件審査報告

二四



秘

文部省官制中改正ノ件外二件審査報告

今回御諮詢ノ文部省官制中改正ノ件、教學局官制及奏任文官特別任用令中改正ノ件ニ付、本官等審査委員ヲ命ゼラレ、本月八日委員會ヲ開キテ、國務大臣及關係諸官ノ辯明ヲ聽キ以テ之ガ査覈ヲ遂ゲタリ

當局ノ説明ニ依レバ、文部省ニ於テハ從前教學上ノ思想對策ノ爲メ、昭和九年六月省内ニ思想局ヲ置キテ、學校及社會教育團體ニ於ケル思想上ノ指導、監督及調査ニ關スル事項竝ニ其ノ他思

想上ノ指導及調査ニ關スル事項ヲ掌理セシメ  
タルが思想問題ハ時世ノ推移ニ伴ヒ近時益々  
複雑且深刻ト爲リ從テ之が教學上ノ對策トシ  
テハ單ニ應急的措置ニ止ムルコトナク努メテ  
根本的施設ヲ講ズルノ要アリ之が爲メニハ我  
國獨特ノ國體觀念ヲ大本トシ日本精神ヲ核心  
トシテ教育及學問ノ内容ヲ改善シ以テ大ニ教  
學ノ刷新振興ヲ圖ラザルベカラズ然ルニ斯カ  
ル重大ナル責務ハ現在ノ思想局ノ機構ヲ以テ  
シテハ到底充分ニ之ヲ遂行セシムルコト能ハ

ザルが故ニ其ノ組織ヲ擴大シ其ノ機能ヲ強化  
シテ所期ノ效果ヲ發揮スルニ遺憾ナカラシム  
ルコトヲ要ス而シテ昨年十月教學刷新評議會  
ヨリ提出シタル答申ニハ其ノ初項ニ於テ文部  
大臣ノ管理ノ下ニ教學刷新ノ有力ナル中心機  
關ヲ設置スルノ必要ヲ強調シタリ乃チ當局ニ  
於テハ此ノ答申ノ旨意ヲ參酌シ從前ノ文部省  
ノ内局タル思想局ヲ廢止シテ同省ノ外局タル  
教學局ヲ新ニ設置スルノ緊要ナルヲ認メ茲ニ  
此ノ趣旨ヲ主眼トスル本案三件ノ制定ヲ奏請



シタルモノナリ

今本案三件ノ要旨ヲ摘録スレバ左ノ如シ

### 第一 文部省官制中改正ノ件

前述ノ如ク文部省ノ外局タル教學局ヲ新ニ設置スルニ伴ヒ従前ノ同省ノ内局タル思想局ハ之ヲ廢止スベキニ由リ本件ヲ以テ文部省官制中従前ノ思想局ニ關スル條項第四條及第六條ニ改正又ハ削除シ従前ノ思想局ノ局長ヲ廢官トスルノ外同局ノ局員タリシ書記官、事務官及屬各若干人ヲ減員ス尤モ私立學校

ノ指導監督資源統制運用ノ準備映畫教育ノ普及其ノ他本省所管ノ各般ノ事務増加シタルノミナラズ今後益々之ヲ充實スルノ要アルニ由リ之が爲メ此ノ際書記官、事務官、技師、屬及技手各若干人ヲ増員シ本件ノ改正規定ニ於テハ其ノ増減ヲ行ヒタル結果異動セルモノノ定員ヲ掲ゲタリ(第十一條)

### 第二 教學局官制

本件ハ新ニ設置スル教學局ノ組織權限ヲ定ムルモノニシテ教學局ハ文部大臣ノ管理ニ

屬シ國體ノ本義ニ基ク教學ノ刷新振興ニ關スル事務ヲ掌ルモノトシ(條二)同局ニ庶務課及企畫指導ノ二部ヲ置キ(條三)其ノ常務職員トシテ勅任ノ長官勅任ノ部長二人奏任ノ書記官事務官理事官各專任一人及教學官專任九人(內一人ヲ勅任ト)並ニ判任ノ屬及教學官補各專任若干人ヲ置キ(條三)別ニ局務ニ參與セシムル爲メ參與ヲ置キ文部大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ジ其ノ學識經驗アル

ニ依リ命ゼラレタル者ニハ原則トシテ三年ノ任期ヲ附シ參與ニシテ本官ヲ有セザルモノニハ勅任官ノ待遇ヲ與フルコトトシ(條四)長官以下ノ常務職員ノ職掌ヲ定ム(第五條乃至第十條)此ノ新官制ノ施行ニ要スル經費ハ前記第一ノ件ニ於ケル職員増置ノ經費ト共ニ既ニ本年度歲出豫算ニ之ヲ計上シタリ

### 第三 奏任文官特別任用令中改正ノ件

前述ノ教學局官制ニ依リ同局ニ新置スル理事官ハ其ノ職務ノ性質上之ガ任用ヲ普通任

用ノ資格アル者ノミニニ限定スベカラザル事  
情アルニ由リ本件ヲ以テ奏任文官特別任用  
令列記ノ諸官中ニ教學局理事官ヲ追加シ該  
官ハ同令所定ノ官歴アル者ヨリ高等試験委  
員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得  
ルモノト爲ス

按ズルニ方今ノ時世ニ鑑ミ國體ノ本義ニ基ク  
教學ノ刷新振興ヲ企圖シ之ガ爲メ適切ナル各  
般ノ施設ヲ攻究實施スルノ要アルコトハ復々  
言ヲ俟タズ今其ノ事務ヲ擔當セシムベキ中心

機關トシテ從前ノ文部省ノ内局タル思想局ヲ  
擴大強化シ之ヲ改メテ同省ノ外局タル教學局  
ト爲ヌノ措置ハ其ノ趣旨ニ於テ固ヨリ不可ナ  
ルコトナク此ノ改正ヲ主眼トスル本案ノ三件  
ハ其ノ餘ノ附隨ノ事項ニ付テモ別ニ支障ノ虞  
ヲ認メズ但ダ教學刷新ノ事タルヤ其ノ繫ル所  
甚ダ廣汎深刻ニシテ其ノ事務ヲ主管スル行政  
部局ノ職責ハ極メテ重大ナルガ故ニ其ノ部局  
ノ規模ハ此ノ重大ナル職責ヲ全クスルニ適ス  
ルモノナラザルベカラズ今本案ニ定ムル教學



局ノ機構が果シテ能ク所期ノ目的ヲ達スルニ  
遺憾ナキヤ否ヤハ之ヲ將來ノ実績ニ待ツノ外  
ナク當局ニ於テハ其ノ使命ノ關要ナルヲ念ヒ  
其ノ事務ノ遂行ニ當リ常ニ最善ノ努力ヲ拂ヒ  
以テ其ノ當初ノ意圖ニ合致セル成績ヲ收ムル  
ニ遺算ナキヲ期セザルベカラズ是レ本官等ノ  
切ニ希望スル所ナリ仍テ審査委員會ニ於テハ  
本案ノ三件ハ總テ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ル  
ベキ旨此ノ希望事項ト共ニ全會一致ヲ以テ議  
決シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十二年七月十日

審査委員長

樞密顧問官 河合 操

審査委員

樞密顧問官 子爵石井菊次郎

樞密顧問官 有馬 良橘

樞密顧問官 原 嘉道

樞密顧問官 清水 澄

樞密顧問官 田中 隆三

樞密顧問官

荒木寅三郎

樞密院議長男爵平沼騏一郎殿

昭和十二年七月九日

書記官長 關

主筆

書記官

書記官

遞信省官制中改正ノ件審査報告

(別紙、通)